

モノグラフ・高校生'96

vol. 46 文系・理系と高校生



監修・静岡大学教授 深谷昌志

| | |
|---------------|------|
| 埼玉県立小川高等学校教諭 | 三枝恵子 |
| 東京都立松が谷高等学校教諭 | 宮沢良美 |
| 明治学院大学非常勤講師 | 吉川杉生 |
| 神奈川県立湘南高等学校教諭 | 穂坂明德 |

目次

| | |
|----------------------------|----|
| 要約 | 2 |
| 第1章 調査の概要 | 6 |
| 1. 調査の目的 | 6 |
| 2. 調査対象の特性 | 7 |
| 第2章 文系・理系による高校生活の特性 | 11 |
| 1. 学校生活の様子 | 11 |
| 2. 教科の得意・苦手意識と学校生活 | 14 |
| 3. 日常生活 | 20 |
| 4. 将来生活の予測 | 28 |
| 第3章 文系・理系生徒の自己像 | 37 |
| 1. 興味や関心のあること | 37 |
| 2. 文系・理系に対するイメージ | 42 |
| 3. 文系・理系生徒の自己像 | 47 |
| 第4章 高校生の文系・理系の分化と進路選択の要因 | 52 |
| 1. 大学・学部選択の動向 | 53 |
| 2. 文系・理系の進路決定時期 | 56 |
| 3. 進路選択に影響を与えた要因 | 58 |
| 4. 卒業後の進学希望大学・学部と進路選択要因の関連 | 63 |
| まとめ | 66 |
| 資料1 調査票見本 | 69 |
| 資料2 基礎集計表 | 82 |



文系・理系と高校生

要約

① 文系・理系タイプの得意・苦手教科をみると、中学生頃から「国語」は文系が得意、「数学」は理系が得意と差が顕著になる。性別では、男子に小学校高学年の頃より「漢字の書き取りや読解」で文系・理系に得意・苦手意識が著しく、文系・理系タイプで得意・苦手意識の分化がみられる。(p.14 表2-3、p.16 図2-2)

② 日常生活の様子を絶対文系・理系で比較すると、理系の生徒は「遊びの途中でも決めた時間がきたらやめる」「自分で計画を立てて勉強をしている」「時間を効率よく使っている」などで高い数値を示している。性別では女子にこの傾向が顕著で、生活習慣や規範意識は文系生徒に、計画性や効率的な生活は理系生徒に多くみられる。(p.24 表2-7)

③ 社会的関心では理系タイプは「バイオテクノロジーで新種の植物が誕生した」「インターネットで情報が入手しやすくなった」「地震予知についての新説が出された」など理系的領域に関心が高く、文系タイプは「バロック音楽の世界的楽団が来日する」「弥生時代以前の新しい遺跡が発見された」などの文化的領域に加え、いじめや人種問題、宗教や経済領域など、やや広い領域に関心が高い傾向にある。(p.25 図2-5、p.26 表2-8、p.27 図2-6)

④ 将来像では、理系タイプに家庭生活も社会的達成期待の意欲も高い傾向がみられる。特に男女とも理系は社会的達成期待への高い意欲と「つねに新しい技術や知識を身につけていく」や「職場での人間関係」においても高い社会的評価を受けると予測しており、文系との差が顕著である。(p.29 図2-7、p.30 表2-10、p.32 表2-11)

⑤ 教科の得意・苦手意識や成績と学校生活の充足感の関連が高く、理系タイプでその傾向が強い。しかし、学校生活が充足していない理系タイプの者でも将来への社会的達成期待の意欲や高い社会的評価を持っており、「社会的に活躍できる自己」に自信を持っている。(p. 18 表 2-4、p. 19 表 2-5、p. 35 表 2-14、p. 36 表 2-15)

⑥ 文系・理系の興味関心の違いは、「数学的思考や技能」「読書や作文」という基本的な部分でその差が顕著にみられる。特に、文系女子、理系男子にこの傾向が強くみられる。(p. 39 図 3-1、p. 41 表 3-1)

⑦ 文系の人々のイメージは「社交的」33.9%、「ユニーク」30.6%、一方、理系の人々のイメージは「頭がよい」68.6%、「器用」48.4%、「要領がよい」45.0%、「まじめ」43.7%、「堅い」39.7%などである。(p. 42 図 3-2、p. 43 図 3-3)

⑧ 文系・理系生徒のイメージの違いは、お互いを「ユニーク」「頭がよい」「堅い」「まじめ」ととらえている。自己評価では、文系生徒は「頭がよい」「堅い」と自らを評価している割合が少ないが、理系生徒は自己を「頭がよい」「まじめ」「堅い」と肯定的に評価している割合が高い。また、「ユニーク」は「理系」独自の特徴としてとらえている。(p. 44 図 3-4、p. 45 図 3-5)

⑨ 特徴的なのは、理系男子で「勉強がよくできる」「異性に人気がある」「運動神経がいい」「顔がいい」「なんとなく目立つ」など「他者から評価される自己」に積極的で肯定的な評価が目立ち、「生き生きした姿」がうかがえる。(p. 49 表 3-4)

⑩ 超難関大学の志望者は、文系が女子、理系は男子に多い。理系タイプは、文系タイプと比べやや高望みの傾向にある。(p. 55 表 4-2)

⑪ 文系・理系の進路分化は、小学校段階ですでに理系は文系の2倍多く、中学校終了段階では、理系タイプの3分の1が決定している。理系タイプの方が早期に進路分化を決めている。(p.56 図4-1)

⑫ 進路選択に影響を与える要因は、適性と成績が2大要因である。特に、理系タイプは理系科目の成績の影響が強く、また、親の意向や職業といった家庭的背景も現れている。一方、文系タイプには、進路情報誌などのマスメディアや先生などのパーソナルメディアの影響も進路選択に関係している。(p.61 表4-5)

⑬ 総じて、一番身近な高校教師が、生徒の進路選択に対してあまり影響を及ぼしていない傾向がみられる。多様なタイプの進路指導が望まれるが、それは学校組織として取り組む必要がある。(p.65 表4-8)

〔まとめ〕

理系タイプは、文系タイプに比べて成長の早い段階で進路分化を決定する傾向が強い。また、文系・理系それぞれのタイプの差は、学校生活や自己像にも現れている。そうした中で、「理系離れ」が話題となる今日、科学技術への興味関心を高める環境づくりと同時に、学力だけに偏らない多様な価値観を学べる指導のあり方も求められているのではないか。

〔調査概要〕

対象●栃木・兵庫・大分・鹿児島¹の公立高校7校の1～3年生2,390名(男子1,220名・女子1,170名)

時期●1995年11月

方法●学校通しによる質問紙調査

〔執筆分担〕

三枝恵子(埼玉県立小川高校教諭) ……要約・第1章・第2章

宮沢良美(東京都立松が谷高校教諭) ……第2章

吉川杉生(明治学院大学非常勤講師) ……第3章

穂坂明德(神奈川県立湘南高校教諭) ……第4章・まとめ

第1章

調査の概要

1. 調査の目的

高校教育の多様化のもとに、文系・理系のコース制度が導入され、早くは高校入学時から文系・理系に分かれる学校も見受けられるが、多くは2年生で文系・理系に分類されるのが一般的なようだ。このような早い段階から文系・理系にコースを決定するのは、よりよい進路選択を達成することを目的としている。生徒たちはコース選択について大学受験に有利でかつ必要な教科をより多く勉強できるカリキュラムを希望し、過激な受験競争を乗り切ろうとしている者が圧倒的である。一方、明確な進路目的が見い出せない生徒にとっては、得意・苦手科目の履修、すなわち「数学」「物理」が必修科目であるかどうか、文系・理系コース選択に大きな比重を占める。こうした高校生たちをみると、人間が進学目的や教科の好き嫌いというだけで文系・理系と単純に分類されてよいのだろうかという疑問を感じる。高校生が文系・理系をどのようにとらえ、文系・理系志向の高校生たちの考え方や高校生活の過ごし方、自己像にどんな違いがあるのか。さらに、高校生の早い段階から

文系・理系に分類する必要があるのだろうか。

また、近年子どもたちの「理系離れ」が問題になっている。今日の科学技術の進歩と子どもたちの科学技術に対する興味関心の低下をどのようにとらえたらよいのだろうか。「理系離れ」の背景には、理科の内容が難しすぎ理解できない生徒の増加、研究過程重視による画一的指導や理科教育の授業時間の減少、日進月歩する科学技術に追いつかない学校の施設・設備の老朽化、また、高校の多様化による選択教科の拡大や大学入試科目の軽減等が考えられる。

さらに、生活の中での高度な技術や機械装置は分解しても内部はわからずブラックボックス的で、子どもたちから簡単な機械を組み立てたり、壊したりしながら内部の構造を知るといった「物を作る、原理や構造を解明する」といった基本的な体験を失わせたことも、科学技術に対する興味関心や意欲が喪失した要因といえる。

以上のような現状の中で、本報告書は、高校生が文系・理系をどのようにとらえている

のか、また、高校生にとって文系・理系タイプの違いで進路選択、進路決定における要因や過程にどのような開きがあるのか、さらに高校生活の過ごし方や自己像にどんな差があ

るのかを明らかにするとともに、高校生の理系離れについての分析を試みようとしたものである。

2. 調査対象の特性

今回の調査対象は栃木・兵庫・大分・鹿児島
島の高校1年生から3年生までの2,390名である(表1-1)。調査対象校は地方の成績上位校で4年制大学進学率が高い高校である。表1-2は部活動の参加状況を示した。

「入ったことがない、または今は入っていない」という者が33.1%いるが、これは調査が1995年11月に行われたため、この時期は、3年生の多くがすでに部活動を引退しているためと推測できる。

表1-1 サンプル数

| (人) | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| | 男子 | 女子 | 合計 |
| 1年 | 130 | 0 | 130 |
| 2年 | 938 | 978 | 1,916 |
| 3年 | 152 | 192 | 344 |
| 合計 | 1,220 | 1,170 | 2,390 |

表1-2 部活動の参加

| 運動部 | | 文化部 | | 入ったことがない、または今は入っていない |
|--------|-------------|--------|-------------|----------------------|
| 積極的に参加 | 入っているがサボりぎみ | 積極的に参加 | 入っているがサボりぎみ | |
| 32.7 | 9.0 | 17.6 | 7.6 | 33.1 |

では、日常生活や進路希望からサンプルの特性についてくわしくみていきたい。表1-3は平日の自由時間の過ごし方を尋ねたものである。テレビの視聴時間、マンガを読む、本を読む、家での勉強時間及びワープロやパソコン活用状況を示した。「家での勉強時間」は「2時間以上」していると答えた者が約7割、「3時間以上」が2割。マンガを「ほとんど読まない」とする者が約2割である。

表1-4は学校生活の充足感である。「と

ても・かなり充足している」とする者約2割、「あまり・ぜんぜん充足していない」者約3割。性別では男子に「充足していない」者が多く、目を引く。

卒業後の進路では、表1-5によれば、「超難関大学」20.4%、「難関大学」39.7%、「普通程度の大学」32.2%と、かなりレベルの高い大学を目指しており、今回の調査対象の高校生は上位校、すなわち進学校に属しているといえる。進路選択の文系・理系別は、

表1-3 自由時間の過ごし方

(1) テレビを見る時間 (土、日を除く) (％)

| (1日に) 30分以内 | 1時間 くらい | 1時間半 くらい | 2時間 くらい | 2時間半 くらい | 3時間 くらい | 4時間 くらい | 5時間以上 |
|-------------|---------|----------|---------|----------|---------|---------|-------|
| 9.6 | 24.5 | 19.3 | 24.6 | 8.2 | 9.6 | 2.6 | 1.6 |

(2) マンガを読む (％)

| ほとんど 読まない | たまに 読む | 1週間に 1冊くらい 読む | 1週間に 2～3冊 くらい読む | 毎日の ように読む |
|-----------|--------|---------------|-----------------|-----------|
| 17.0 | 34.0 | 17.1 | 18.5 | 13.4 |

(3) 本を読む (マンガや参考書以外) (％)

| ほとんど 読まない | たまに 読む | 1か月に 1冊くらい 読む | 1か月に 2～3冊 くらい読む | 1か月に 4～5冊 くらい読む | それ以上 読む |
|-----------|--------|---------------|-----------------|-----------------|---------|
| 29.8 | 33.1 | 15.9 | 12.4 | 4.2 | 4.6 |

(4) ワープロやパソコンを使う (％)

| いつも している | かなり している | たまに する | ほとんど しない | ぜんぜん しない | 持って いない |
|----------|----------|--------|----------|----------|---------|
| 1.5 | 2.9 | 19.9 | 16.2 | 22.5 | 37.0 |

(5) 家での勉強 (土、日を除く) (％)

| (1日に) ほとんど しない | 30分 くらい | 1時間 くらい | 1時間半 くらい | 2時間 くらい | 2時間半 くらい | 3時間以上 |
|----------------|---------|---------|----------|---------|----------|-------|
| 7.3 | 4.3 | 8.9 | 13.3 | 27.0 | 19.6 | 19.6 |

図1-1に示したように、文系・理系にはほぼ二分されている。

表1-6は自分のタイプを「文系・理系どちらか」と自己評価させたものである。全体では文系・理系が半々、性別では男子に理系タイプ、女子に文系タイプと自己評価する割合が高い。表は省略したが、数学の成績の上位者に理系タイプが多い。なお、今回の調査の結果は、この「文系・理系タイプ」の自己評価をキーとし、2章以下で分析を行う。

「文系・理系どちらになりたいか」は表1-7に示した。自己を文系タイプと自己評価している者の中で「絶対理系」になりたいと答えた者は7.4%だが、「できたら理系」を合わせると3割を超える。一方、理系タイプと自己評価している者は「絶対文系」になりたい3.9%、「できたら文系」を合わせても約1割であり、理系タイプに比べ文系タイプは自己を「文系」と自己評価することに曖昧さがあるようだ。

表1-4 学校生活の充足感

| | | (%) | | | | | |
|----|----|-----------|-----------|----------|-----------|------------|-------------|
| | | とても充足している | かなり充足している | やや充足している | やや充足していない | あまり充足していない | ぜんぜん充足していない |
| 全体 | | 5.5 | 14.2 | 34.9 | 17.1 | 16.4 | 11.9 |
| | | 19.7 | | | | 28.3 | |
| 性別 | 男子 | 4.5 | 10.9 | 32.0 | 19.2 | 17.4 | 16.0 |
| | | 15.4 | | | | 33.4 | |
| | 女子 | 6.6 | 17.6 | 37.9 | 14.9 | 15.4 | 7.6 |
| | | 24.2 | | | | 23.0 | |

表1-5 卒業後の進路

| | 全体 | 性別 | |
|--------------------|------|------|------|
| | | 男子 | 女子 |
| 1. 入るのがとても難しい4年制大学 | 20.4 | 21.3 | 19.6 |
| 2. 入るのが難しい4年制大学 | 39.7 | 38.6 | 40.8 |
| 3. 普通程度の4年制大学 | 32.2 | 33.4 | 30.9 |
| 4. 入るのがやさしい4年制大学 | 2.9 | 3.8 | 2.0 |
| 5. 短大 | 1.8 | 0.3 | 3.3 |
| 6. 専修(専門)学校 | 1.2 | 1.0 | 1.4 |
| 7. 就職 | 0.4 | 0.6 | 0.3 |
| 8. その他 | 1.4 | 1.0 | 1.7 |

図 1 - 1 進路選択

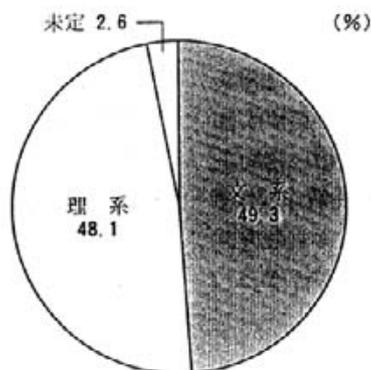


表 1 - 6 文系・理系タイプ

| | | 絶対文系 | どちらかといえば文系 | どちらかといえば理系 | 絶対理系 |
|----|----|------|------------|------------|------|
| 全体 | | 22.1 | 29.7 | 29.6 | 18.6 |
| | | 51.8 | | 48.2 | |
| 性別 | 男子 | 15.2 | 23.1 | 33.2 | 28.5 |
| | 女子 | 29.2 | 36.8 | 25.8 | 8.2 |
| | | 38.3 | | 61.7 | |
| | | 66.0 | | 34.0 | |

表 1 - 7 文系・理系どちらになりたいか

| | | 絶対文系 | できたら文系 | できたら理系 | 絶対理系 |
|----|----|------|--------|--------|------|
| 全体 | | 23.6 | 18.5 | 28.6 | 29.3 |
| 文系 | | 41.9 | 26.5 | 24.2 | 7.4 |
| 理系 | | 3.9 | 10.0 | 33.5 | 52.6 |
| | | 13.9 | | 31.6 | |
| 性別 | 男子 | 19.3 | 16.0 | 27.4 | 37.3 |
| | 女子 | 28.1 | 21.1 | 30.0 | 20.8 |

第2章

文系・理系による 高校生活の特性

「文系・理系」というと数学・理科や国語・社会など教科の好き嫌いや得意・苦手意識を思い出したり、人間的な気質を「あの人は文系的発想をする、理系的発想をする」などと評した経験を持つことも多いのではないだろうか。

この章では、高校生活において、文系・理

系のタイプの違いを学校生活、教科の得意・苦手意識、日常生活の様子、社会的出来事への関心、将来の生活予測、社会的達成期待などについて明らかにし、高校生の文系・理系の特性を探ってみることにする。

分析は「文系・理系タイプ」(表1-6)の自己評価の項目を用いた。

1. 学校生活の様子

文系・理系タイプの高校生はどんな高校生活を送っているのだろうか。まず、現在の高校生活を中心に数値を追ってみたい。表2-1は学校生活の充足感を示した。文系・理系とも充足感を持ってない学校生活をしている者が多い。特に、男子文系では「とても・かなり充足している」と答えた者15.0%、「あまり・ぜんぜん充足していない」とする者は39.0%とその差が顕著である。文系・理系を比較すると充足感に差はみられないが、充足していないと感じている者が文系に多い。

この充足感が持てない背景をもう少し詳しく数値でみていきたい。表2-2は部活動の参加状況である。男子では、運動部約4割、文化部約1割、合わせて5割の者が積極的に

部活動に参加しており、文系・理系の差はみられない。女子では運動部2~3割、文化部3割が積極的に活動しており、男子同様、文系・理系による差はみられない。表は省略したが、部活動に積極的に参加している者がやや充足感が高い。

次に、授業中の様子を見てみよう。図2-1によれば、今回の調査対象が地方の上位校ということもあり、授業中「ノートをしっかりとする」について「いつも・わりとそうしている」が約7割、「先生の話熱心に聞く」が約6割と高く、文系・理系、性別でほとんど差がみられない。授業中、となりの人とおしゃべりをしたり、マンガや雑誌をいつも読んでいる者はごくわずかにすぎず、かなり熱

心に勉強している様子がうかがえる。

表は省略したが、授業に意欲的に参加している者に充足感が高い。では、文系・理系の

学校生活の充足感の差の要因は何なのだろうか。

表 2 - 1 学校生活の充足感 × 文系理系・性

(%)

| | | とても充足 している | かなり充足 している | やや充足 している | やや充足 していない | あまり充足 していない | ぜんぜん 充足して いない |
|--------|-----|---------------|---------------|--------------|---------------|----------------|---------------------|
| 全 体 | 文 系 | 5.8 | 14.4 | 34.2 | 16.1 | 17.2 | 12.3 |
| | | 20.2 | | | | 29.5 | |
| 理 系 | 5.3 | 13.8 | 35.7 | 18.3 | 15.5 | 11.4 | |
| | | 19.1 | | | | 26.9 | |
| 男 子 | 文 系 | 4.7 | 10.3 | 27.7 | 18.3 | 19.6 | 19.4 |
| | | 15.0 | | | | 39.0 | |
| 理 系 | 4.4 | 11.2 | 34.8 | 19.8 | 16.0 | 13.8 | |
| | | 15.6 | | | | 29.8 | |
| 女 子 | 文 系 | 6.4 | 16.9 | 38.1 | 14.7 | 15.8 | 8.1 |
| | | 23.3 | | | | 23.9 | |
| 理 系 | 7.1 | 18.7 | 37.6 | 15.4 | 14.4 | 6.8 | |
| | | 25.8 | | | | 21.2 | |

表 2 - 2 部活動への参加 × 文系理系・性

(%)

| | | 運動部 | | 文化部 | | 入ったことが ない、または 今は入ってい ない |
|--------|-----|------------|-----------------|------------|-----------------|----------------------------------|
| | | 積極的に 参加 | 入っているが サボりぎみ | 積極的に 参加 | 入っているが サボりぎみ | |
| 全 体 | 文 系 | 30.1 | 8.6 | 19.8 | 9.0 | 32.5 |
| | 理 系 | 35.6 | 9.5 | 15.3 | 6.1 | 33.5 |
| 男 子 | 文 系 | 39.2 | 11.4 | 7.4 | 2.0 | 40.0 |
| | 理 系 | 40.4 | 10.4 | 7.3 | 3.5 | 38.4 |
| 女 子 | 文 系 | 24.6 | 7.0 | 27.2 | 13.2 | 28.0 |
| | 理 系 | 26.8 | 7.7 | 30.3 | 11.0 | 24.2 |

図 2-1 授業中の様子 × 文系理系・性

| | | いつもそう している | | わりとそう している | | ぜんぜんそうして いない | | |
|---------------------------|----|---------------|------|---------------|------|-----------------|----------------|-----|
| | | | | | | 少しそう している | あまりそう していない | (%) |
| 1. ノートをしっかりとる (74.0) | 男子 | 文系 | 25.6 | 45.8 | 15.5 | 6.9 | 6.0 | |
| | | 理系 | 31.0 | 39.5 | 15.0 | 9.0 | 5.5 | |
| | 女子 | 文系 | 34.0 | 45.7 | 11.3 | 6.8 | 2.2 | |
| | | 理系 | 31.8 | 40.4 | 16.2 | 9.3 | 2.3 | |
| 2. 先生の話に熱心に聞く (55.9) | 男子 | 文系 | 10.3 | 40.8 | 29.3 | 13.1 | 6.5 | |
| | | 理系 | 10.7 | 46.4 | 28.7 | 9.9 | 4.3 | |
| | 女子 | 文系 | 9.8 | 47.5 | 28.6 | 11.4 | 2.7 | |
| | | 理系 | 10.1 | 45.9 | 27.3 | 14.9 | 1.8 | |
| 3. ポートとしている (28.7) | 男子 | 文系 | 11.0 | 20.6 | 37.3 | 21.9 | 9.2 | |
| | | 理系 | 7.4 | 19.5 | 36.2 | 26.2 | 10.7 | |
| | 女子 | 文系 | 7.2 | 21.5 | 38.1 | 27.3 | 5.9 | |
| | | 理系 | 7.3 | 21.3 | 39.2 | 27.1 | 5.1 | |
| 4. いねわりをする (25.5) | 男子 | 文系 | 11.2 | 20.9 | 37.4 | 18.9 | 11.6 | |
| | | 理系 | 5.9 | 18.3 | 38.9 | 22.8 | 14.1 | |
| | 女子 | 文系 | 6.3 | 18.0 | 41.0 | 25.4 | 9.3 | |
| | | 理系 | 4.8 | 18.2 | 40.6 | 23.5 | 12.9 | |
| 5. となりの人などとおしゃべりする (13.5) | 男子 | 文系 | 7.8 | 10.6 | 23.3 | 35.9 | 22.4 | |
| | | 理系 | 4.1 | 13.0 | 28.5 | 34.9 | 19.5 | |
| | 女子 | 文系 | 3.1 | 5.5 | 26.2 | 37.6 | 27.6 | |
| | | 理系 | 2.3 | 8.1 | 30.6 | 39.8 | 19.2 | |
| 6. マンガや雑誌を読む (3.5) | 男子 | 文系 | 3.9 | 3.4 | 6.5 | 13.1 | 73.1 | |
| | | 理系 | 6.6 | 9.9 | | 79.5 | | |
| | 女子 | 文系 | 1.0 | 0.9 | 1.3 | 2.7 | 80.0 | |
| | | 理系 | 0.3 | 0.5 | | 79.7 | | |

() は「いつも」+「わりと」そうしている割合の全体値

2. 教科の得意・苦手意識と学校生活

そこで、学校生活や教科の得意・苦手意識の変化を小学校の頃から時系列的に追ってみたのが表2-3、図2-2である。

まず、表2-3に教科の特徴的な内容や友だち関係がどう変化してきたかを示した。(1)小学校高学年の頃をみると、文系的要素の高い「漢字の書き取りや国語の読解が得意、社会科の勉強が楽しかった」は文系の者が、

「算数の計算や理科の実験が好きだった」のような理系的要素については理系の者が「まったくそうだった」とする数値が高い。性別では国語は女子に、社会科や理科の実験は男子が得意とする割合が高く、特に男子に「漢字の書き取りや国語の読解が得意だった」項目で文系・理系の差が顕著にみられる。「歌が得意」「走るのが速かった」「友だちが

表2-3 学校生活の変化 × 文系理系・性

| | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
|------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 |
| 1. 漢字の書き取りはよくできた | 48.0 | 29.2 | 42.2 | 25.2 | 51.4 | 36.6 |
| 2. 国語の読解が得意だった | 37.9 | 16.2 | 29.8 | 12.0 | 42.7 | 24.1 |
| 3. 算数の計算が得意だった | 32.6 | 55.8 | 33.0 | 56.7 | 32.4 | 54.0 |
| 4. 文章題を解くのが好きだった | 22.1 | 16.9 | 15.9 | 15.1 | 25.8 | 20.5 |
| 5. 社会科の勉強が楽しかった | 38.0 | 24.3 | 43.0 | 27.2 | 34.9 | 18.8 |
| 6. 理科の実験が好きだった | 34.0 | 52.3 | 35.7 | 54.8 | 33.2 | 47.7 |
| 7. 走るのが速かった | 22.5 | 22.3 | 22.6 | 22.7 | 22.5 | 21.5 |
| 8. 歌うのが得意だった | 23.7 | 16.4 | 16.2 | 13.2 | 28.3 | 22.5 |
| 9. 友だちが多かった | 38.4 | 39.2 | 40.5 | 41.6 | 37.1 | 34.5 |
| 10. クラスのリーダー格だった | 19.4 | 17.7 | 16.4 | 15.2 | 21.3 | 22.5 |

「まったくそうだった」割合
○は10%以上差のあるもの

多かった」「クラスのリーダー格だった」の項目では文系・理系の差はごくわずかである。

では、中学生になるとどう変化していくのだろうか。(2)によれば、全体の傾向は小学校高学年の頃と変わらないが、「国語の読解が得意」「方程式の計算が得意」「図形の勉強が楽しかった」とする者が文系・理系ではほぼ2倍の差がみられ、文系・理系タイプで得意・苦手意識が分化していく様子がうかがえる。

さらに、国語・社会・数学(算数)・理科・英語の教科全体の得意・苦手意識の変化を小学校から高校1年まで尋ねたのが図2-2である。特徴的なのは高校1年になると、5

教科すべてで「とても・かなり得意」とする者が急激に減少し、理系・文系とも同様の傾向にある。中学生までと比べ高校での勉強内容の難しさのためだろうか。

次いで、教科別にみると「国語」「数学(算数)」「理科」では、小学5・6年生からすでに文系・理系タイプで得意・苦手意識の違いがはっきりみえる。また、「社会」「理科」で中学生の頃に「とても・かなり得意」とする者が若干増える傾向にあるが、これは学習する内容の違いと推測できる。高校の「英語」は文系・理系を問わず、難しいようである。

(2) 中学生の頃

(%)

| | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
|------------------|------|------|------|------|------|------|
| | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 |
| 1. 漢字を書くのは得意だった | 32.7 | 18.1 | 31.1 | 17.2 | 33.7 | 19.7 |
| 2. 国語の読解は得意だった | 32.1 | 11.8 | 26.3 | 9.8 | 35.6 | 15.4 |
| 3. 方程式の計算は得意だった | 32.2 | 59.1 | 31.3 | 59.1 | 32.8 | 59.2 |
| 4. 図形の勉強は楽しかった | 18.0 | 34.1 | 17.7 | 34.1 | 18.3 | 33.9 |
| 5. 社会科の勉強は楽しかった | 38.7 | 23.2 | 41.3 | 25.9 | 37.1 | 18.2 |
| 6. 理科の実験は好きだった | 31.4 | 50.6 | 34.1 | 52.2 | 29.8 | 47.5 |
| 7. スポーツは得意だった | 23.3 | 26.8 | 29.6 | 28.9 | 19.5 | 23.0 |
| 8. 歌うのが得意だった | 24.4 | 18.1 | 18.1 | 14.3 | 28.2 | 25.3 |
| 9. 友だちが多かった | 38.1 | 39.6 | 38.8 | 41.9 | 37.6 | 35.4 |
| 10. クラスのリーダー格だった | 18.4 | 15.3 | 18.4 | 12.5 | 18.4 | 20.6 |

「まったくそうだった」割合
○は10%以上差のあるもの

図2-2 教科の得意・苦手意識 × 文系理系

| | | (%) | | | | | |
|---------------|-----|--------|-------|------|-------|-------|------|
| | | とても得意 | かなり得意 | やや得意 | かなり苦手 | とても苦手 | |
| 1. 国語 | 文系 | 小学5・6年 | 36.3 | 23.3 | 32.5 | 5.9 | 2.0 |
| | | 中学生 | 29.1 | 29.3 | 31.8 | 7.4 | 2.4 |
| | | 高校1年 | 9.0 | 14.4 | 48.4 | 21.5 | 6.7 |
| | 理系 | 小学5・6年 | 17.7 | 16.7 | 40.8 | 17.2 | 7.6 |
| | | 中学生 | 10.0 | 16.5 | 39.5 | 24.1 | 9.9 |
| | | 高校1年 | 2.2 | 6.5 | 29.9 | 39.4 | 22.0 |
| 2. 社会 | 文系 | 小学5・6年 | 34.0 | 24.5 | 29.5 | 9.4 | 2.6 |
| | | 中学生 | 41.5 | 24.9 | 23.3 | 8.4 | 1.9 |
| | | 高校1年 | 13.7 | 16.2 | 39.5 | 22.6 | 8.0 |
| | 理系 | 小学5・6年 | 25.4 | 19.7 | 34.1 | 14.0 | 6.8 |
| | | 中学生 | 29.3 | 23.3 | 27.1 | 13.7 | 6.6 |
| | | 高校1年 | 7.7 | 11.0 | 34.4 | 32.8 | 14.1 |
| 3. 数学 (算数) | 文系 | 小学5・6年 | 31.4 | 20.9 | 30.3 | 12.2 | 5.2 |
| | | 中学生 | 20.5 | 22.3 | 32.8 | 18.9 | 5.5 |
| | | 高校1年 | 2.9 | 4.7 | 23.8 | 36.3 | 32.3 |
| | 理系 | 小学5・6年 | 51.6 | 23.0 | 19.5 | 4.8 | 1.1 |
| | | 中学生 | 49.9 | 29.0 | 16.5 | 4.0 | 0.6 |
| | | 高校1年 | 15.6 | 21.5 | 41.9 | 16.3 | 4.7 |
| 4. 理科 | 文系 | 小学5・6年 | 27.7 | 20.4 | 36.8 | 12.3 | 2.8 |
| | | 中学生 | 26.4 | 25.1 | 34.5 | 10.8 | 3.2 |
| | | 高校1年 | 2.7 | 5.9 | 29.9 | 41.5 | 20.0 |
| | 理系 | 小学5・6年 | 42.0 | 21.5 | 28.0 | 6.8 | 1.7 |
| | | 中学生 | 48.9 | 25.7 | 20.4 | 3.9 | 1.1 |
| | | 高校1年 | 11.3 | 17.7 | 43.4 | 22.3 | 5.3 |
| 5. 英語 | 文系 | 中学生 | 39.3 | 23.8 | 23.0 | 10.2 | 3.7 |
| | | 高校1年 | 11.6 | 11.9 | 31.6 | 28.9 | 16.0 |
| | 理系 | 中学生 | 30.4 | 23.3 | 26.5 | 15.1 | 4.7 |
| 高校1年 | 7.1 | 9.2 | 30.3 | 33.6 | 19.8 | | |

図2-3は教科の成績を示した。教科の成績は得意・苦手意識とほぼ同様の傾向にある。

高校の教育課程も多様化しており、多くの学校で得意教科や進路目的に合わせ履修できるようである。このような早い段階から得意・苦手意識が形成され、また、得意・苦手意識が成績に与える影響も大きい中では、多様

なカリキュラムは必要であり、それぞれが興味関心・必要性に合わせ履修できることは個性豊かな人間の育成にとって重要なことである。しかし、高校生活が得意教科や進路目的に必要なためだけに偏った教育内容でよいものだろうか。

図2-3 教科の成績 × 文系理系

| | | (%) | | | | |
|-------|----|------|------|------|------|------|
| | | 上 | 中の上 | 中 | 中の下 | 下 |
| 1. 国語 | 文系 | 10.1 | 25.0 | 35.1 | 18.2 | 11.6 |
| | 理系 | 4.0 | 15.2 | 28.8 | 27.4 | 24.6 |
| 2. 社会 | 文系 | 12.3 | 22.9 | 29.7 | 18.1 | 17.0 |
| | 理系 | 7.6 | 17.9 | 31.4 | 22.7 | 20.2 |
| 3. 数学 | 文系 | 4.7 | 13.5 | 22.8 | 21.8 | 37.2 |
| | 理系 | 14.8 | 28.7 | 30.0 | 14.3 | 12.2 |
| 4. 理科 | 文系 | 5.1 | 12.9 | 30.5 | 26.8 | 24.7 |
| | 理系 | 10.4 | 22.8 | 34.2 | 19.9 | 12.7 |
| 5. 体育 | 文系 | 9.0 | 20.9 | 33.8 | 19.9 | 16.4 |
| | 理系 | 9.9 | 22.6 | 37.8 | 16.0 | 13.7 |
| 6. 芸術 | 文系 | 12.4 | 19.8 | 42.2 | 16.4 | 9.2 |
| | 理系 | 9.2 | 19.3 | 43.6 | 17.2 | 10.7 |
| 7. 英語 | 文系 | 10.7 | 20.2 | 27.8 | 19.8 | 21.5 |
| | 理系 | 8.0 | 18.5 | 25.5 | 25.6 | 22.4 |

表2-4、表2-5は学校生活の充足感と文系・理系の差を中学校の頃の学校生活と成績で示した。充足群として「とても・かなり充足している」467人、「あまり・ぜんぜん充足していない」670人を非充足群として、中学校の頃の学校生活、現在の成績を文系・理系別にみたものである。

表2-4によると、充足群では「漢字を書

くこと、国語の読解が得意、社会科の勉強が楽しかった」は文系、「方程式の計算が得意、図形の勉強や理科の実験が楽しかった」は理系が「まったくそうだった」とする割合が高い。これは得意・苦手意識と同様の傾向である。非充足群でも同様の傾向であるが、文系・理系とも「まったくそうだった」割合は充足群に比較し減少している。表2-5は教科

表2-4 学校生活 × 学校生活の充足感・文系理系
(中学生の頃)

| | 充足群 | | 非充足群 | |
|------------------|------|------|------|------|
| | 文系 | 理系 | 文系 | 理系 |
| 1. 漢字を書くのは得意だった | 41.4 | 25.3 | 32.9 | 16.0 |
| 2. 国語の読解は得意だった | 40.3 | 18.4 | 32.3 | 10.4 |
| 3. 方程式の計算は得意だった | 38.6 | 66.8 | 31.8 | 57.4 |
| 4. 図形の勉強は楽しかった | 21.7 | 39.6 | 20.2 | 34.0 |
| 5. 社会科の勉強は楽しかった | 47.0 | 25.9 | 38.5 | 22.8 |
| 6. 理科の実験は好きだった | 36.5 | 63.1 | 32.6 | 49.2 |
| 7. スポーツは得意だった | 24.9 | 31.3 | 26.2 | 27.7 |
| 8. 歌うのが得意だった | 34.1 | 27.6 | 23.8 | 15.6 |
| 9. 友だちが多かった | 49.4 | 51.6 | 37.0 | 36.2 |
| 10. クラスのリーダー格だった | 25.3 | 22.7 | 20.3 | 13.4 |

「まったくそうだった」割合
○は10%以上差のあるもの

の成績である。理系タイプでは、成績の「上・中の上」と自己評価する割合が充足群と非充足群を比較すると「数学」(充足群64.6%・非充足群29.6%)、「理科」(同様に48.4%・26.7%)、「英語」(同様に40.8%・16.3%)とほぼ半減する。さらに、文系的教科の「国語」「社会」や「芸術」「体育」の成績もかなり減少している。一方、文系では「国

語」「社会」で成績の「上・中の上」とする割合は減少するものの、その差に大きな開きはみられない。しかし、理系教科の「数学」「理科」の成績が「上・中の上」とする割合は1割にすぎない。

学校生活の充足感は教科の成績や得意・苦手意識と関連が深く、理系タイプの非充足群にその傾向が強くみられる。

表2-5 教科の成績 × 学校生活の充足感・文系理系

| | 充足群 | | 非充足群 | |
|-------|------|------|------|------|
| | 文系 | 理系 | 文系 | 理系 |
| 1. 国語 | 45.1 | 29.3 | 33.6 | 14.9 |
| 2. 社会 | 42.9 | 38.7 | 30.2 | 20.5 |
| 3. 数学 | 27.5 | 64.6 | 10.6 | 29.6 |
| 4. 理科 | 25.9 | 48.4 | 12.8 | 26.7 |
| 5. 体育 | 32.0 | 39.7 | 40.6 | 28.0 |
| 6. 芸術 | 45.6 | 39.8 | 28.1 | 23.0 |
| 7. 英語 | 37.0 | 40.8 | 24.7 | 16.3 |

「上」+「中の上」の割合
○は10%以上差のあるもの

3. 日常生活

では、日常生活の中で文系・理系タイプにどのような違いがあるのだろうか。表2-6は平日の自由時間の過ごし方を文系理系別に

示した。(1)テレビを見る時間は「1時間から2時間くらい」が約7割でほとんど差はみられず、性別でも同様である。(2)マンガを

表2-6 自由時間の過ごし方 × 文系理系・性

(1) テレビを見る時間 (土、日を除く) (％)

| | | (1日に) 30分以内 | 1時間 くらい | 1時間半 くらい | 2時間 くらい | 2時間半 くらい | 3時間 くらい | 4時間 くらい | 5時間 以上 |
|--------|----|----------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|------------|-----------|
| 全 体 | 文系 | 9.7 | 24.4 | 20.3 | 23.2 | 8.5 | 9.1 | 2.9 | 1.9 |
| | 理系 | 9.4 | 24.8 | 18.3 | 26.0 | 7.8 | 10.1 | 2.3 | 1.3 |
| 男 子 | 文系 | 9.7 | 24.4 | 20.4 | 21.2 | 8.2 | 10.3 | 3.0 | 2.8 |
| | 理系 | 9.5 | 23.2 | 18.9 | 26.0 | 8.3 | 9.8 | 2.7 | 1.6 |
| 女 子 | 文系 | 9.8 | 24.3 | 20.2 | 24.4 | 8.7 | 8.3 | 2.9 | 1.4 |
| | 理系 | 9.1 | 27.9 | 17.2 | 26.1 | 6.8 | 10.6 | 1.5 | 0.8 |

(2) マンガを読む (％)

| | | ほとんど 読まない | たまに 読む | 1週間に 1冊くらい読む | 1週間に2～3 冊くらい読む | 毎日のように 読む |
|--------|----|--------------|-----------|-----------------|-------------------|--------------|
| 全 体 | 文系 | 18.2 | 35.5 | 15.2 | 17.2 | 13.9 |
| | 理系 | 15.5 | 32.5 | 19.1 | 20.0 | 12.9 |
| 男 子 | 文系 | 10.7 | 23.8 | 17.6 | 26.4 | 21.5 |
| | 理系 | 11.1 | 28.7 | 21.7 | 23.3 | 15.2 |
| 女 子 | 文系 | 22.8 | 42.6 | 13.8 | 11.6 | 9.2 |
| | 理系 | 23.7 | 39.7 | 14.1 | 13.9 | 8.6 |

読むを男子の文系理系に注目してみると、「1週間に2～3冊くらい読む」と答えた文系男子は26.4%、「毎日のように読む」を合わせると約5割と2人に1人はマンガをかなり読んでいる。一方、理系男子では「1週間に2～3冊くらい読む」が23.3%、「毎日のように読む」を合わせ約4割と差が顕著である。マンガや参考書以外の「本を読む」割合

は全体・性別で文系の者に多く、逆に「読まない」とする者は圧倒的に理系に多い。(5)家での勉強時間は「2時間以上」している割合が、約6～7割でよく勉強している姿がみられ、文系・理系、性別に差はみられない。(4)ワープロ・パソコンの活用状況は表の通りである。

(3) 本を読む(マンガや参考書以外) (%)

| | | ほとんど 読まない | たまに 読む | 1か月に1冊 くらい読む | 1か月に 2～3冊 くらい読む | 1か月に 4～5冊 くらい読む | それ以上 読む |
|--------|----|--------------|-----------|-----------------|-----------------------|-----------------------|------------|
| 全 体 | 文系 | 25.0 | 33.7 | 15.7 | 14.7 | 5.0 | 5.9 |
| | 理系 | 35.0 | 32.3 | 16.2 | 10.1 | 3.3 | 3.1 |
| 男 子 | 文系 | 26.8 | 32.3 | 13.7 | 15.2 | 5.6 | 6.4 |
| | 理系 | 37.0 | 30.7 | 15.8 | 9.7 | 3.5 | 3.3 |
| 女 子 | 文系 | 23.8 | 34.7 | 16.9 | 14.3 | 4.7 | 5.6 |
| | 理系 | 31.1 | 35.3 | 17.2 | 10.9 | 3.0 | 2.5 |

(4) ワープロやパソコンを使う (%)

| | | いつも している | かなり している | たまに する | ほとんど しない | ぜんぜん しない | 持って いない |
|--------|----|-------------|-------------|-----------|-------------|-------------|------------|
| 全 体 | 文系 | 1.1 | 2.6 | 20.0 | 17.9 | 23.3 | 35.1 |
| | 理系 | 2.0 | 3.3 | 19.6 | 14.5 | 21.7 | 38.9 |
| 男 子 | 文系 | 2.1 | 3.4 | 22.3 | 15.7 | 15.9 | 40.6 |
| | 理系 | 2.3 | 4.3 | 20.4 | 13.5 | 19.9 | 39.6 |
| 女 子 | 文系 | 0.4 | 2.1 | 18.6 | 19.3 | 27.8 | 31.8 |
| | 理系 | 1.5 | 1.5 | 17.9 | 16.4 | 25.3 | 37.4 |

(5) 家での勉強 (土、日を除く)

(%)

| | | (1日に) ほとんど しない | 30分 くらい | 1時間 くらい | 1時間半 くらい | 2時間 くらい | 2時間半 くらい | 3時間 以上 |
|--------|----|----------------------|------------|------------|-------------|------------|---------------------|-----------|
| 全 体 | 文系 | 8.0 | 3.9 | 8.8 | 14.4 | 26.8 | 20.1 | 18.0 |
| | 理系 | 6.4 | 4.7 | 9.1 | 12.0 | 27.3 | 19.1 | 21.4 |
| 男 子 | 文系 | 11.2 | 4.1 | 9.7 | 13.5 | 23.8 | <u>18.3</u> 61.5 | 19.4 |
| | 理系 | 7.1 | 4.3 | 9.0 | 11.4 | 25.2 | <u>19.8</u> 68.2 | 23.2 |
| 女 子 | 文系 | 6.1 | 3.8 | 8.3 | 14.9 | 28.5 | <u>21.2</u> 66.9 | 17.2 |
| | 理系 | 5.1 | 5.4 | 9.4 | 13.3 | 31.1 | <u>17.6</u> 66.8 | 18.1 |

次に日常生活の様子を基本的な生活習慣や規範意識、計画性についてみていくことにする。

図2-4によれば、「朝1人で起きる」が「いつもそうしている」とする者がやや文系に多いが、全体ではほとんど差がみられない。性別での関連をみたのが表2-7である。「絶対文系」「絶対理系」で「いつも・だいたいそうしている」割合を比較すると、男子では「朝1人で起きる」項目で文系が、「遊びの途中で決めた時間がきたらやめる」「自分で計画を立てて勉強をしている」で理系が若干高い数値を示している。一方、女子では「約束したことはきちんと守る」「朝1人で起きる」「机のまわりの整理整頓」で文系に数値が高く、「テレビは見たいものを見て、だからと見ない」「遊びの途中で決めた時間がきたらやめる」「自分で計画を立てて勉強をしている」「時間を効率よく使っている」で理系に数値が高く、差が顕著である。

全体には、文系の生徒は基本的な生活習慣や

規範感覚の形成ができ、理系では計画性において優れていると推測できよう。

こうした日常生活の特性を持つ高校生は、どのような社会的出来事に関心を持つのだろうか。また、文系・理系の差があるのだろうか。図2-5は、今日、関心の高い社会的な出来事10項目について尋ねたものである。「ガンの新薬が開発された」「バイオテクノロジーで新種の植物が誕生した」は明らかに理系的要素を持った項目で理系に高い関心があるが、その他の項目では大きな差はみられない。「いじめの問題が深刻化している」「地震予知についての新説が出された」「宗教法人法、改正への動き」などは、現在わが国の重要な社会問題であり、文系・理系にかかわらず関心の深さが結果となって現れている。しかし、「いじめ問題」「宗教法人法、改正の動き」「地震予知の新説」などは、高校生としてもう少し関心を持って欲しい結果でもある。

図2-4 日常生活の様子 × 文系理系

| | | (%) | | | | |
|---|----|---------------|----------------|----------------------------|-----------------------|------|
| | | いつも そうしている | だいたい そうしている | ぜんぜん あまり そうして いない | どちら とも いえ ない | |
| 〈生活習慣・規範意識〉 | | | | | | |
| 1. 服装はきちんとして いる (82.8) | 文系 | 44.7 | 38.1 | 12.4 | 3.7 | 1.1 |
| | 理系 | 44.1 | 38.7 | 13.0 | | 1.3 |
| | | | | | | 2.9 |
| 2. 約束したことはきち んと守る (77.7) | 文系 | 28.6 | 49.6 | 16.3 | 4.5 | 1.0 |
| | 理系 | 27.2 | 50.0 | 16.8 | 4.8 | 1.2 |
| 3. 朝1人で起きる (53.6) | 文系 | 32.3 | 22.9 | 12.7 | 18.3 | 13.8 |
| | 理系 | 26.4 | 25.2 | 15.4 | 17.6 | 15.4 |
| 4. 机のまわりの整理整 頓 (31.9) | 文系 | 12.6 | 20.7 | 19.9 | 26.8 | 20.0 |
| | 理系 | 11.6 | 18.9 | 21.1 | 25.4 | 23.0 |
| 〈計画性〉 | | | | | | |
| 5. テレビは見たいもの を見て、だらだらと 見ない (43.7) | 文系 | 15.4 | 28.8 | 24.8 | 21.4 | 9.6 |
| | 理系 | 14.8 | 28.5 | 25.5 | 22.0 | 9.2 |
| 6. 遊びの途中でも決め た時間がきたらやめ る (28.5) | 文系 | 5.4 | 23.5 | 33.4 | 26.0 | 11.7 |
| | 理系 | 6.0 | 22.0 | 33.1 | 26.6 | 12.3 |
| 7. 自分で計画を立てて 勉強をしている (28.0) | 文系 | 7.9 | 19.1 | 26.8 | 29.3 | 16.9 |
| | 理系 | 7.6 | 21.4 | 28.7 | 25.3 | 17.0 |
| 8. 時間を効率よく使っ ている (13.5) | 文系 | 3.3 | 10.0 | 34.5 | 35.4 | 16.8 |
| | 理系 | 2.8 | 10.9 | 37.0 | 34.2 | 15.1 |

() は「いつも」+「だいたい」そうしている割合の全体値

表2-7 日常生活の様子 × 文系理系・性

(%)

| | | 全 体 | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
|-----------|--------------------------|------|------|--------|------|--------|------|--------|
| | | | 絶対文系 | 絶対理系 | 絶対文系 | 絶対理系 | 絶対文系 | 絶対理系 |
| 生活習慣・規範意識 | 1. 服装はきちんとしている | 82.8 | 82.3 | 81.9 | 77.8 | 81.0 | 84.8 | 85.4 |
| | 2. 約束したことはきちんと守る | 77.7 | 80.8 | 79.2 | 76.8 | 78.6 | 83.0 | > 81.3 |
| | 3. 朝1人で起きる | 53.6 | 56.3 | > 51.1 | 53.0 | > 49.2 | 68.1 | > 58.4 |
| | 4. 机のまわりの整理整頓 | 31.9 | 35.2 | 33.5 | 30.9 | 33.3 | 37.6 | > 34.4 |
| 計 画 性 | 5. テレビは見たいものを見て、だらだらと見ない | 43.7 | 46.9 | 46.6 | 48.1 | 45.4 | 46.2 | < 51.1 |
| | 6. 遊びの途中で決めた時間がきたらやめる | 28.5 | 27.2 | 29.9 | 22.1 | < 26.9 | 29.9 | < 40.7 |
| | 7. 自分で計画を立てて勉強をしている | 28.0 | 29.3 | < 35.6 | 30.3 | < 35.6 | 28.7 | < 35.4 |
| | 8. 時間を効率よく使っている | 13.5 | 15.1 | 17.6 | 17.3 | 16.5 | 13.8 | < 21.9 |

「いつも」+「だいたい」そうしている割合

図2-5 社会的な出来事への関心 × 文系理系

| | | (%) | | | | |
|--------------------------------|----|-----------|-----------|----------|-----------|------------|
| | | とても ある | かなり ある | やや ある | あまり ない | ぜんぜん ない |
| 1. いじめの問題が深刻化している (49.9) | 文系 | 25.1 | 27.3 | 33.0 | 8.9 | 5.7 |
| | 理系 | 20.5 | 26.6 | 33.8 | 10.9 | 8.2 |
| 2. ガンの新薬が開発された (47.0) | 文系 | 18.9 | 24.0 | 34.9 | 13.5 | 8.7 |
| | 理系 | 26.4 | 25.0 | 29.3 | 10.7 | 8.6 |
| 3. 地震予知についての新説が出された (37.3) | 文系 | 14.3 | 21.3 | 31.8 | 22.1 | 10.5 |
| | 理系 | 17.5 | 21.7 | 29.1 | 19.9 | 11.8 |
| 4. バイオテクノロジーで新種の植物が誕生した (36.1) | 文系 | 15.1 | 14.2 | 26.2 | 26.6 | 17.9 |
| | 理系 | 24.6 | 18.8 | 26.5 | 16.8 | 13.3 |
| 5. 宗教法人法、改正への動き (34.0) | 文系 | 14.3 | 21.3 | 29.5 | 22.6 | 12.3 |
| | 理系 | 14.8 | 17.3 | 26.3 | 24.3 | 17.3 |
| 6. 弥生時代以前の新しい遺跡が発見された (27.4) | 文系 | 13.6 | 17.5 | 26.6 | 23.8 | 18.5 |
| | 理系 | 12.0 | 11.5 | 23.9 | 26.7 | 25.9 |
| 7. インターネットで情報が入手しやすくなった (25.9) | 文系 | 11.1 | 13.0 | 29.4 | 29.3 | 17.2 |
| | 理系 | 13.9 | 14.0 | 26.5 | 26.1 | 19.5 |
| 8. 円安で1ドルが100円に戻りそうだ(24.3) | 文系 | 11.7 | 13.6 | 31.5 | 28.3 | 14.9 |
| | 理系 | 10.5 | 12.6 | 28.7 | 27.8 | 20.4 |
| 9. O・J・シン普森裁判と人種問題 (21.5) | 文系 | 10.0 | 12.7 | 33.2 | 25.9 | 18.2 |
| | 理系 | 9.9 | 10.4 | 27.8 | 29.3 | 22.6 |
| 10. バロック音楽の世界的名曲が来日する (11.4) | 文系 | 7.0 | 6.2 | 16.2 | 34.8 | 35.8 |
| | 理系 | 4.1 | 5.3 | 12.8 | 33.5 | 44.3 |

() は「とても」+「かなり」ある割合の全体値

さらに社会的関心の違いを数値で追ってみたい。

表2-8によれば、性別による関心の深さは男女とも文系・理系の差が顕著である。さらに、図2-6では「とても・かなりある」割合の中での文系・理系志向の生徒の分布で

ある。「バイオテクノロジーで新種の植物が誕生した」(57.8%)、「インターネットで情報が入手しやすくなった」(51.9%)、「地震予知についての新説が出された」(50.5%)で理系志向の者が、「バロック音楽の世界的楽団が来日する」(60.0%)、「弥生時代以前

表2-8 社会的な出来事への関心 × 文系理系・性

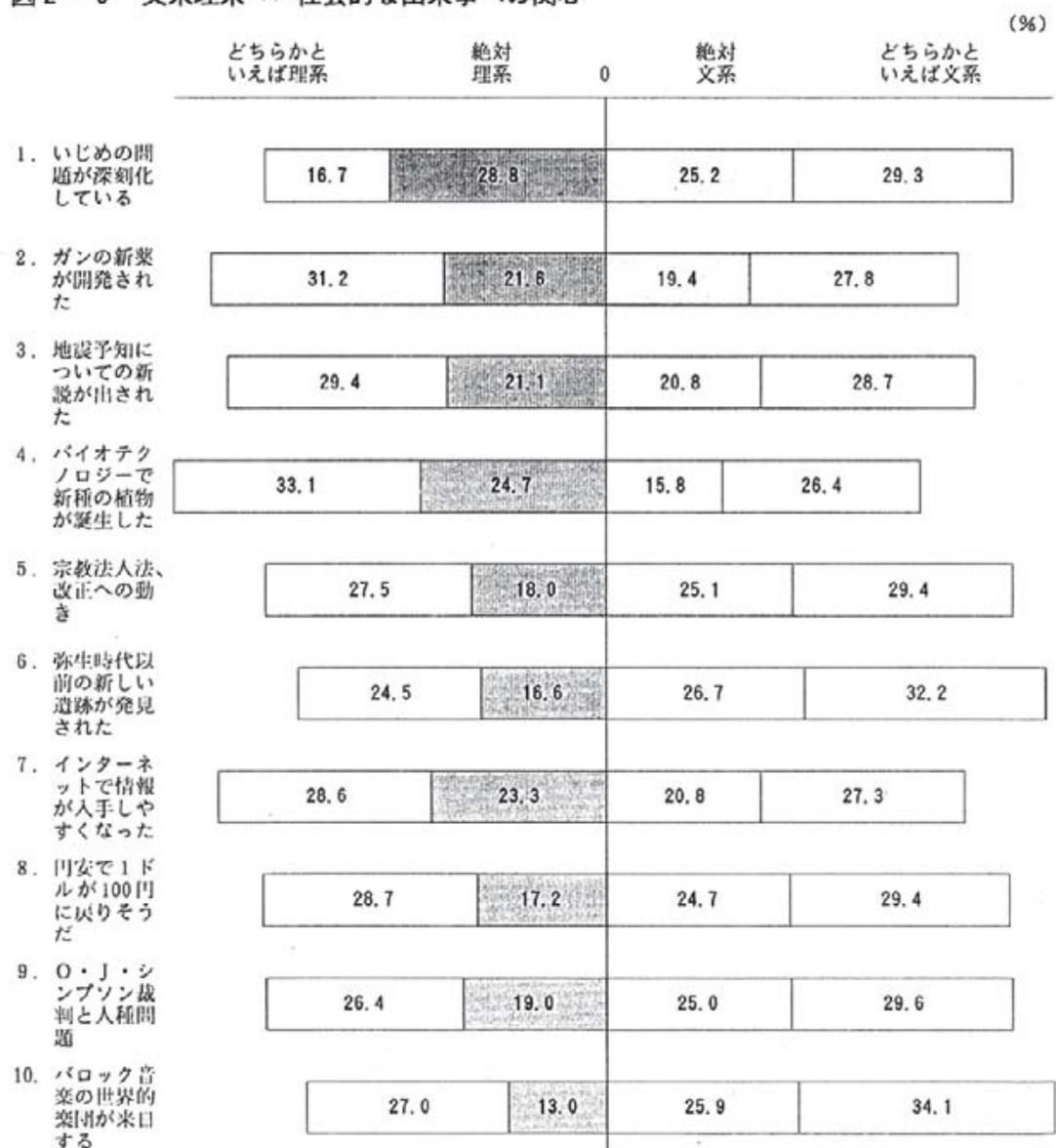
| | (%) | | | | | | |
|-------------------------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 全 体 | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
| | | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 |
| 1. いじめの問題が深刻化している | 49.9 | 52.4 | 47.1 | 43.9 | 45.6 | 57.6 | 50.1 |
| 2. ガンの新薬が開発された | 47.0 | 42.9 | 51.4 | 44.4 | 51.0 | 41.9 | 52.5 |
| 3. 地震予知についての新説が出された | 37.3 | 35.6 | 39.2 | 36.8 | 41.3 | 34.8 | 35.3 |
| 4. バイオテクノロジーで新種の植物が誕生した | 36.1 | 29.3 | 43.4 | 30.6 | 44.8 | 28.6 | 40.9 |
| 5. 宗教法人法、改正への動き | 34.0 | 35.6 | 32.1 | 37.4 | 33.4 | 34.5 | 29.7 |
| 6. 弥生時代以前の新しい遺跡が発見された | 27.4 | 31.1 | 23.5 | 31.2 | 24.7 | 31.2 | 21.2 |
| 7. インターネットで情報が入手しやすくなった | 25.9 | 24.1 | 27.9 | 28.8 | 34.0 | 21.2 | 16.6 |
| 8. 円安で1ドルが100円に戻りそうだ | 24.3 | 25.3 | 23.1 | 29.1 | 23.2 | 23.0 | 22.9 |
| 9. O・J・シンブソン裁判と人種問題 | 21.5 | 22.7 | 20.3 | 25.6 | 21.1 | 20.9 | 19.0 |
| 10. バロック音楽の世界的楽団が来日する | 11.4 | 13.2 | 9.4 | 11.4 | 8.6 | 14.2 | 11.1 |

「とても」+「かなり」ある割合
○は5%以上差のあるもの

の新しい遺跡が発見された」(58.9%)、「O・J・シンプソン裁判と人種問題」(54.6%)、「いじめの問題が深刻化している」(54.5%)、「宗教法人法、改正への動き」(54.5%)、「円安で1ドルが100円に戻りそうだ」(54.1%)で文系の者が過半数を超え、理系生徒は理系

的な領域にのみ関心を持つ傾向があり、やや文系の生徒の方が社会的関心が高く、興味関心が多様であるといえそうである。

図2-6 文系理系 × 社会的な出来事への関心



「とても」+「かなり」ある割合

4. 将来生活の予測

近年、高校生の、社会で大活躍してみたい、ビッグな職業についてみたいという社会的達成への関心は弱まり、家庭志向が強まっているといわれている。それは人生のすべてを企業や仕事に捧げる生き方から私生活の充実を求める社会の動向を反映しているのかもしれない。が、一方では将来への意欲に欠ける高校生像ともいえる。

そこで、高校生たちの将来像に視点を向け、文系・理系の違いを追ってみることにする。

表2-9は将来、結婚相手は恋愛か見合いかを尋ねたものである。「絶対恋愛結婚をしたい」とする割合はほぼ半数で、全体、性別

でごくわずかに理系の方が恋愛結婚希望が強い。

図2-7は将来の社会的評価を自己評価したものである。「言われた仕事はきちんとこなす」「職場の同僚とうまくやっていく」ことが「絶対・たぶんできる」と答えた割合は約9割、「上司とうまくやっていく」は約8割と、文系・理系とも高い評価をしている。次いで「部下や後輩に信頼される」「職場の雰囲気明るくする」が高い数値で続いている。さらに、「つねに新しい技術や知識を身につけていく」「同期入社の人より早く出世する」では理系の数値の高さが目を引く。

表2-9 恋愛か見合いか × 文系理系・性

| | 全 体 | (%) | | | | | |
|--------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
| | | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 |
| 1. 絶対恋愛結婚をしたい | 51.6 | 50.2 | 52.8 | 47.3 | 52.7 | 51.9 | 52.8 |
| 2. 恋愛は楽しみたいが、結婚相手は見合いの方がいい | 1.8 | 1.9 | 1.8 | 2.0 | 1.5 | 1.9 | 2.3 |
| 3. 恋愛でいい人と出会える自信がないので、見合いの方がいい | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 1.7 | 1.8 | 1.1 | 0.5 |
| 4. いい相手にめぐり会えたら、恋愛でも見合いでもいい | 45.3 | 46.6 | 44.1 | 49.0 | 44.0 | 45.1 | 44.4 |

図2-7 社会的評価 × 文系理系

| | | (%) | | | |
|-------------------------------|----|-----------|------------|----------------|-----|
| | | 絶対 できる | たぶん できる | できないかも しれない | |
| 1. 言われた仕事はきちんとこなす (87.4) | 文系 | 28.2 | 59.1 | 10.3 | 2.4 |
| | 理系 | 29.5 | 58.0 | 10.3 | 2.2 |
| 2. 職場の同僚とうまくやっていく (86.3) | 文系 | 18.9 | 66.9 | 11.0 | 3.2 |
| | 理系 | 22.2 | 64.5 | 10.6 | 2.7 |
| 3. 上司とうまくやっていく (76.3) | 文系 | 16.0 | 59.2 | 19.8 | 5.0 |
| | 理系 | 16.9 | 60.4 | 18.0 | 4.7 |
| 4. 部下や後輩に信頼される (65.7) | 文系 | 9.9 | 53.8 | 31.0 | 5.3 |
| | 理系 | 11.7 | 56.2 | 27.8 | 4.3 |
| 5. 職場の雰囲気をも明るくする (65.0) | 文系 | 17.0 | 46.6 | 29.4 | 7.0 |
| | 理系 | 20.6 | 46.0 | 28.5 | 4.9 |
| 6. つねに新しい技術や知識を身につけていく (62.0) | 文系 | 12.4 | 43.6 | 36.9 | 7.1 |
| | 理系 | 18.7 | 49.9 | 27.8 | 3.6 |
| 7. 同期入社の人より早く出世する (38.1) | 文系 | 8.5 | 25.2 | 56.7 | 9.6 |
| | 理系 | 10.9 | 31.8 | 50.3 | 7.0 |

() は「絶対」+「たぶん」できる割合の全体値

表2-10は性別で示した。男子理系の者はすべての項目で男子文系の者より高い自己評価をしており、その差が顕著である。すなわち男子理系の者は、高度な技術や知識を身につけ、それによって部下からも後輩からも信頼され、同僚や上司ともうまくやることができるといことだろうか。女子の理系においても同様で、新しい技術や知識を身につけ、職場での活躍を期待できるという社会的評価の高さが注目されるが、職場での人間

関係の評価では文系・理系の差がみられない。

次に、家庭生活と社会生活についての将来像の予測を尋ねた結果が図2-8である。家庭生活については文系・理系の差はみられないが、社会生活上の達成期待においては「望んでいる進路に進める」「望んでいる仕事につける」「仕事仲間から尊敬される」「社会的に大活躍できる」と評価している数値に差が顕著で、理系の生徒に達成意欲が高い。

表2-10 社会的評価 × 文系理系・性

| | (%) | | | | | | |
|--------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 全 体 | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | |
| | | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 |
| 1. 言われた仕事はきちんとこなす | 87.4 | 87.3 | 87.5 | 82.9 | 86.7 | 90.1 | 88.9 |
| 2. 職場の同僚とうまくや っていく | 86.3 | 85.8 | 86.7 | 82.7 | 86.2 | 87.6 | 87.5 |
| 3. 上司とうまくやっ ていく | 76.3 | 75.2 | 77.3 | 68.7 | 75.0 | 79.2 | 81.6 |
| 4. 部下や後輩に信頼さ れる | 65.7 | 63.7 | 67.9 | 63.5 | 69.1 | 63.9 | 65.5 |
| 5. 職場の雰囲気をも るくする | 65.0 | 63.6 | 66.6 | 59.2 | 64.9 | 66.2 | 69.6 |
| 6. つねに新しい技術や 知識を身につけてい く | 62.0 | 56.0 | 68.6 | 56.6 | 71.1 | 55.6 | 64.1 |
| 7. 同期入社の人より早 く出世する | 38.1 | 33.7 | 42.7 | 37.4 | 45.6 | 31.5 | 37.3 |

「絶対」+「たぶん」できる割合
○は5%以上差のあるもの

図2-8 将来の生活予測 × 文系理系

| | | (%) | | | | |
|-----------------------------------|----|--------------|--------------|-------------|------------|------------|
| | | きっと そうなれる | たぶん そうなれる | 少し 難しいかも | かなり 難しい | とても 難しい |
| (1) 家庭生活 | | | | | | |
| 1. 好きな人と結婚できる (58.4) | 文系 | 27.2 | 30.5 | 25.2 | 8.2 | 8.9 |
| | 理系 | 27.0 | 32.0 | 27.7 | 6.4 | 6.9 |
| 2. 幸せな家庭をつくれる (73.8) | 文系 | 27.9 | 45.9 | 17.0 | 3.6 5.6 | |
| | 理系 | 28.6 | 45.0 | 18.4 | 3.2 4.8 | |
| 3. よい子どもに恵まれる (63.3) | 文系 | 20.1 | 42.9 | 24.8 | 5.2 | 7.0 |
| | 理系 | 18.9 | 44.8 | 25.4 | 5.4 | 5.5 |
| 4. 年に1~2回泊まりがけの家族旅行ができる (64.0) | 文系 | 22.3 | 41.0 | 23.5 | 7.1 | 6.1 |
| | 理系 | 24.2 | 40.8 | 23.4 | 5.5 | 6.1 |
| 5. 普通くらいの暮らしができる (84.1) | 文系 | 28.5 | 56.2 | 9.2 | 2.3 3.8 | |
| | 理系 | 29.2 | 54.0 | 11.2 | 1.8 3.8 | |
| (2) 社会生活 | | | | | | |
| 1. 望んでいる進路に進める (48.8) | 文系 | 15.8 | 30.1 | 40.4 | 7.9 | 5.8 |
| | 理系 | 19.5 | 32.3 | 38.7 | 6.0 | 3.5 |
| 2. 望んでいる仕事につける (50.9) | 文系 | 16.7 | 31.2 | 39.2 | 6.5 | 6.4 |
| | 理系 | 20.3 | 34.0 | 36.9 | 5.2 | 3.6 |
| 3. 仕事仲間から尊敬される (35.9) | 文系 | 7.5 | 24.3 | 49.0 | 11.0 | 8.2 |
| | 理系 | 9.7 | 30.8 | 43.0 | 10.7 | 5.8 |
| 4. 社会的に大活躍できる (27.0) | 文系 | 9.2 | 15.8 | 40.7 | 18.6 | 15.7 |
| | 理系 | 12.9 | 16.1 | 44.7 | 15.4 | 10.9 |
| 5. 普通くらいはお金が入る (83.4) | 文系 | 24.9 | 57.8 | 11.5 | 2.5 3.3 | |
| | 理系 | 29.8 | 54.3 | 11.1 | 2.5 2.3 | |

() は「きっと」「たぶん」そうなれる割合の全体値

性別では、表2-11によれば、男子の理系は家庭生活、社会的達成期待ともに文系より高い数値を示し、将来への期待の大きさがうかがえる。女子の理系では社会的達成期待で

文系との差が顕著で、男子同様将来への期待の大きさがうかがえるが、家庭生活では文系・理系の差はみられない。

では、こうした違いは学校生活の充足感と

表2-11 将来の生活予測 × 文系理系・性

| | | (%) | | | | | | | |
|------------------|-------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--|
| | | 全 体 | 全 体 | | 男 子 | | 女 子 | | |
| | | | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | |
| 家 庭 生 活 | 1. 好きな人と結婚できる | 58.4 (27.2) | 57.7 (27.2) | 59.0 (27.0) | 48.7 (22.5) | 57.2 (26.9) | 63.3 (30.1) | 62.2 (27.2) | |
| | 2. 幸せな家庭をつくれる | 73.8 (28.3) | 73.8 (27.9) | 73.6 (28.6) | 65.2 (22.4) | 70.6 (27.4) | 79.1 (31.3) | 79.3 (31.0) | |
| | 3. よい子どもに恵まれる | 63.3 (19.6) | 63.0 (20.1) | 63.7 (18.9) | 54.2 (16.2) | 61.7 (18.8) | 68.2 (22.4) | 67.5 (19.3) | |
| | 4. 年に1~2回泊まりがけの家族旅行ができる | 64.0 (23.3) | 63.3 (22.3) | 65.0 (24.2) | 56.9 (18.4) | 63.8 (24.7) | 67.1 (24.6) | 67.3 (23.4) | |
| | 5. 普通くらいの暮らしができる | 84.1 (28.9) | 84.7 (28.5) | 83.2 (29.2) | 75.7 (22.9) | 80.1 (26.7) | 90.2 (31.8) | 89.6 (34.1) | |
| 社 会 生 活 | 1. 望んでいる進路に進める | 48.8 (17.6) | 45.9 (15.8) | 51.8 (19.5) | 39.9 (12.8) | 50.7 (17.7) | 49.6 (17.7) | 53.8 (22.8) | |
| | 2. 望んでいる仕事につける | 50.9 (18.4) | 47.9 (16.7) | 54.3 (20.3) | 42.5 (12.8) | 52.6 (18.5) | 51.1 (19.0) | 57.3 (23.5) | |
| | 3. 仕事仲間から尊敬される | 35.9 (8.6) | 31.8 (7.5) | 40.5 (9.7) | 31.9 (8.9) | 41.0 (11.1) | 31.8 (6.7) | 41.2 (6.9) | |
| | 4. 社会的に大活躍できる | 27.0 (11.0) | 25.0 (9.2) | 29.0 (12.9) | 29.3 (11.3) | 29.9 (13.8) | 22.5 (8.0) | 27.3 (11.1) | |
| | 5. 普通くらいはお金が入る | 83.4 (27.3) | 82.7 (24.9) | 84.1 (29.8) | 74.3 (19.3) | 81.5 (28.8) | 87.7 (28.3) | 89.4 (31.6) | |

「きっと」+「たぶん」そうなる割合
 ()は「きっとそうなる」割合
 ○は5%以上差のあるもの

どのような関連があるのだろうか。表2-12～15は「日常生活の様子」「社会的な出来事への関心」「将来の社会的評価」「将来の生活予測」について、「とても・かなり充足して

いる」467人を「充足群」として、「あまり・ぜんぜん充足していない」670人を「非充足群」としてクロスした結果である。

非充足群の理系の生徒は、現在の学校生活

表2-12 日常生活の様子 × 高校生活の充足感・文系理系

| | | (%) | | | | |
|-------------|--------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 全 体 | 充足群 | | 非充足群 | |
| | | | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 |
| 生活習慣・規範意識 | 1. 服装はきちんとしている | 82.8 | 89.1 | 88.2 | 74.5 | 72.8 |
| | 2. 約束したことはきちんと守る | 77.7 | 85.4 | 85.8 | 72.2 | 68.3 |
| | 3. 朝1人で起きる | 53.6 | 56.9 | 53.9 | 49.7 | 47.1 |
| | 4. 机のまわりの整理整頓 | 31.9 | 37.9 | 34.2 | 30.0 | 28.8 |
| 計 画 性 | 5. テレビは見たいものを見て、だらだらと見ない | 43.7 | 53.7 | 56.4 | 36.9 | 35.6 |
| | 6. 遊びの途中でも決めた時間がきたらやめる | 28.5 | 33.6 | 35.6 | 25.6 | 22.9 |
| | 7. 自分で計画を立てて勉強をしている | 28.0 | 35.7 | 38.0 | 18.6 | 19.3 |
| | 8. 時間を効率よく使っている | 13.5 | 22.1 | 24.7 | 9.7 | 6.6 |

「いつも」+「だいたい」そうしている割合

が充足しなくても、将来得られるだろう高い社会的評価や社会的達成期待に望みを描いている。また、理系の充足群、非充足群とも「ガンの新薬の開発」「地震予知の新説」「バイオテクノロジーによる新種の植物の誕生」などに高い関心を示している。すなわち、理系志向の高校生は現状の学校生活では満たされない部分があっても、学校以外で自分の特

技や技術・趣味を持っており、そうした分野の知識や技術を得ることにより、将来「社会的に活躍が期待できる自己」に自信を持っているということだろうか。

逆に、非充足群の文系は将来の目的も曖昧で、学校生活の充足感も得られず、特技となるような技術や趣味も見い出せず明確な将来像の描けない不安な層なのではないだろうか。

表 2-13 社会的な出来事への関心 × 高校生活の充足感・文系理系

| | 全 体 | 充足群 | | 非充足群 | |
|-------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 |
| 1. いじめの問題が深刻化している | 49.9 | 63.3 | 54.6 | 43.7 | 46.0 |
| 2. ガンの新薬が開発された | 47.0 | 47.8 | 58.0 | 39.1 | 53.9 |
| 3. 地震予知についての新説が出された | 37.3 | 40.8 | 47.9 | 33.3 | 36.9 |
| 4. バイオテクノロジーで新種の植物が誕生した | 36.1 | 33.9 | 43.3 | 27.5 | 44.7 |
| 5. 宗教法人法、改正への動き | 34.0 | 41.5 | 40.6 | 30.8 | 34.0 |
| 6. 弥生時代以前の新しい遺跡が発見された | 27.4 | 39.2 | 30.2 | 28.3 | 20.5 |
| 7. インターネットで情報が入手しやすくなった | 25.9 | 19.4 | 32.5 | 23.7 | 23.9 |
| 8. 円安で1ドルが100円に戻りそう | 24.3 | 29.0 | 29.7 | 25.5 | 23.2 |
| 9. O・J・シンプソン裁判と人種問題 | 21.5 | 28.6 | 27.4 | 22.5 | 18.0 |
| 10. バロック音楽の世界的楽団が来日する | 11.4 | 21.2 | 15.0 | 11.0 | 10.2 |

「とても」+「かなり」ある割合
○は5%以上差のあるもの

こうした結果から、学校生活での文系・理系の特性については、理系の生徒が高い社会的評価と社会的達成期待の意欲を持っている。表は省略したが、この傾向は数学の得意な生徒の傾向と一致する。これは文系志向の高校生が教科の得意・苦手意識を持ちつつある中で文系意識を形成していくのに対して、理系志向の高校生は得意教科の選択や趣味・技術

など専門的特技の中から理系意識を形成していく過程の違いがあると推測される。

高い自己評価と社会的達成期待を持つ理系タイプの高校生が大学、社会生活を通して、どのように変化していくのか興味のあるところである。

3章では、自己像から文系・理系の差をさらに深く探っていきたい。

表 2-14 社会的評価 × 高校生活の充足感・文系理系

| | 全 体 | 充足群 | | | | 非充足群 | |
|------------------------|------|------|------|------|------|------|--|
| | | 文 系 | | 理 系 | | 理 系 | |
| | | 文 系 | 理 系 | 文 系 | 理 系 | | |
| 1. 言われた仕事はきちんとこなす | 87.4 | 91.5 | 94.1 | 81.8 | 76.6 | | |
| 2. 職場の同僚とうまくやっていく | 86.3 | 91.9 | 93.1 | 77.3 | 77.2 | | |
| 3. 上司とうまくやっていく | 76.3 | 79.3 | 83.5 | 66.3 | 65.8 | | |
| 4. 部下や後輩に信頼される | 65.7 | 74.4 | 78.4 | 53.6 | 57.0 | | |
| 5. 職場の雰囲気を明るくする | 65.0 | 78.2 | 79.8 | 54.8 | 58.0 | | |
| 6. つねに新しい技術や知識を身につけていく | 62.0 | 68.7 | 75.4 | 48.6 | 60.3 | | |
| 7. 同期入社の人より早く出世する | 38.1 | 42.5 | 49.5 | 34.7 | 36.5 | | |

(%)

「絶対」+「たぶん」できる割合
○は5%以上差のあるもの

表2-15 将来の生活予測 × 高校生活の充足感・文系理系

(%)

| | | 充足群 | | 非充足群 | |
|------|-------------------------|------|------|------|------|
| | | 文系 | 理系 | 文系 | 理系 |
| 家庭生活 | 1. 好きな人と結婚できる | 67.4 | 72.1 | 49.0 | 48.6 |
| | 2. 幸せな家庭をつくれる | 83.3 | 82.6 | 64.7 | 62.1 |
| | 3. よい子どもに恵まれる | 76.9 | 74.8 | 52.7 | 51.2 |
| | 4. 年に1~2回泊まりがけの家族旅行ができる | 66.8 | 73.8 | 54.7 | 57.0 |
| | 5. 普通くらいの暮らしができる | 89.9 | 91.3 | 76.6 | 73.9 |
| 社会生活 | 1. 望んでいる進路に進める | 57.7 | 71.9 | 37.2 | 41.4 |
| | 2. 望んでいる仕事につける | 60.4 | 67.4 | 38.2 | 45.8 |
| | 3. 仕事仲間から尊敬される | 40.0 | 56.3 | 21.7 | 32.2 |
| | 4. 社会的に人活躍できる | 41.7 | 51.8 | 23.1 | 24.8 |
| | 5. 普通くらいはお金が入る | 34.0 | 54.7 | 74.9 | 76.8 |

「きっと」+「たぶん」そうなる割合
 ○は5%以上差のあるもの